

1.1-4 事故から丸4年。対策が講じられず、このままでは東京に住めなくなるのでは？

東京も一頃放射性物質の降下により放射線量が上がっていたが、現在は元に戻っています。

福島第一原子力発電所からの放射性物質の大部分は発電所から北西方面に流され、その方向の30 km以内にはまだ線量の高い地域があります。

各地の放射線レベルは自然低下し（放射性物質は放置しておくとも自然に減衰し、安定な物質に変化して最後には線量はゼロになる）、あるいは風や雨で流されて他の場所に移動してその場所の線量は減少していきます。

福島事故直後に高い数値を示していた各地の放射線レベルはいずれも検出限界以下に下がっており、線量も事故前の数値に戻っています。次の URL で現在値を見ることができます。

<<http://new.atmc.jp/>> 各地放射線量マップ

東京も福島事故による放射能汚染は残っていません。しかし正確に言うと地球上はどこでも自然放射線が存在します。さらに1950年代から60年代にかけて盛んに行われた大気中核実験により世界中に放散された放射性物質が存在しています。現在はピーク時の1万分の1くらいまで下がっていますが、まだその影響も残っています。我々はこのような環境の中で生活を続け、健康上の問題もなく乗り越えてきたのであり、東京を始め関東・東北とも何ら問題は生じないでしょう。（2015年6月回答）